

立命館経済學

第二十九卷 第三号

昭和五十五年八月

内 容

論 說

- 政策科学と計量経済モデル (一)……………山 田 彌 1
史的唯物論における生活手段の概念 ……………角 田 修 一 28
——生活手段の経済学的規定の意義によせて——
雇用増と実質賃金率増との同時達成策について (Ⅱ)
……………北 野 正 一 62

研 究

- 現代産業と産業組織分析の方法 ……………山 本 幹 夫 85
——産業組織の再編と市場成果規準——
工場制下の労働と家族 ……………湯 浅 良 雄 121
——イギリス1833年工場法と家族——

書 評

- 向井俊彦著『唯物論とヘーゲル研究』……………鱒 坂 真 165

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第二十九卷・第一号

論 説

労働制度と労働者の権利……………三好正巳
——「経済的民主主義」をめぐって——
南北戦争後のプランテーション経済
をめぐる最近の研究動向……………藤岡 惇

研 究

財政危機下における資金運用
部資金の財政投融资計画外
運用について……………梅原英治

研究ノート

社会主義社会の歴史的位位置と
発展段階区分についての覚え書……………小野 一郎

書 評

小野一郎著『現代社会主義経済論』…宮鍋 轍

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第二十九卷・第二号

論 説

国家独占資本主義論と資本蓄積……………杉野 園明
三月前期のプロイセンにおける
「社会問題」と社会政策および
中間層政策の展開(四)……………川本和良

雇用増と実質賃金率増との

同時達成策について(Ⅰ)……………北野正一

研 究

国債管理政策の二つの形態……………浅田和史

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会